

令和5年度学校評価自己評価表

学校経営方針：小規模の良さを生かし、地域とともに、ねばり強く児童一人一人の可能性を最大限に伸ばす学校

学校教育目標：ふるさとを愛し、未来を拓くたくましい「本地っ子」の育成 ～本気で地道に～

北広島町立本地小学校

項目	中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための方策	評価指標・目標値	学校自己評価					学校関係者評価	
					前期		達成度	評価	改善策	評価	コメント
					目標値	達成値					
健やかな体	自らを律し、生活力を高めるための体力・耐力を育成する	生活リズムを整え、心身を鍛え、失敗を恐れず、目標に向かって努力する態度を育てる	①望ましい生活リズムがもたらす効果を啓発し、保護者とともに生活振り返りカードの取組を行う。	①生活振り返りシートにおいて、各自が望ましいと設定した就寝時刻を6割以上守って生活できた児童の割合 80%以上	80%	85%	106	4	・生活振り返りシートや保健だより、保健朝会等の取組を進めることで保護者との連携を深める。今後も生活リズムについて課題意識をもって改善していくことを継続する。 ・新たに取り組んだ「ストップ9」の取組により、メディアの活用についても指導の充実を図る。	A	早く寝る習慣をつけ、望ましい生活リズムを定着するには、家庭の協力が必要不可欠である。生活振り返りシートによって、子供たちが自発的に意識しながら行動し、保護者も現状を改めて確認できるので、継続して取り組んでほしい。
			②体育科や特別活動（行事）において個々に目標を設定させ、達成に向けて継続して努力できるよう態度を肯定的に評価したり、児童自身が技能や体力の向上を実感できるよう取り組んだりする。	②活動後、自分の取り組み方や体力・技能の向上について、肯定的に自己評価する児童の割合 85%以上	85%	92%	108	4	・新体力テストの結果や体育の授業マラソン大会に向けての練習等で設定した数値目標を活用し、体力向上が実感できるよう継続して取り組ませる。 ・体育の授業づくりや体力づくりについて職員研修を実施し、各学級や学校全体での取組の改善を図る。 ・実態から、後期の目標値を85%から90%に変更する。	A	自分で目標を設定し評価する力は大人になってもとても大切な力なので、ぜひとも今度も継続してほしい。肯定的に評価する児童も多かったとのことなので、自己肯定感を育むいい機会である。体力向上に向けて、授業改善や休憩時間の外遊びの習慣づけなど、積極的に取り組んでほしい。
豊かな心	命を大切に、自他を認め合いながら磨き合う集団を育成する	命を大切にする安全教育を中心とし、支え合い磨き合う集団をつくりあげる	①危機回避能力を高めるために、避難訓練を年に5回実施する。	①アンケート（児童）で「危険が迫った時、避難する方法を理解している児童」の割合 90%以上	90%	90%	100	4	・避難訓練後に学校行事カードに振り返りを書かせて、理解を深めさせる。 ・抜き打ちの避難訓練を行い、より実践的な避難を体験させる。 ・実態から、後期の目標を90%から95%に変更する。	A	避難訓練が年に5回実施できていて素晴らしい。昔はもっと少ない印象であった。目標を引き上げて確実に会得されることを希望する。
			②学級活動や学校行事の充実を図る。 ・学校行事カードを活用した自己の振り返りの継続 ・学級活動での話し合い活動を充実させるための職員研修の実施や手引きの活用	②アンケート（児童・教職員）で「みんなが伸びるために考えたり、話し合ったりしている児童」の割合 80%以上	80%	89%	111	4	・話し合い活動の進め方の研修や手引きの活用を進める。 ・話し合いで考えが深まった時に評価し、児童への意識付けを行う。 ・児童会活動を中心にいじめ防止の取組を実施する。 ・実態から、後期の目標を80%から90%に変更する。	A	活動や行事に対して、やったらそれでおしまいにしないことはとても良いことである。ぜひとも考える力を育てていく方針でお願いしたい。 目標を引き上げて確実に会得されることを希望する。
確かな学力	基礎・基本の定着を図ると共に、思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度を高める	学習習慣の定着を図り、基礎学力の定着・熟考・豊かに表現する学びを創る	①算数科を中心とした予習学習 ・予習で自分の考えをまとめる。 ・授業の中で適応問題に取り組む時間を十分に確保する。 ・学習の理解度を振り返るルーブリック表を活用する。	①算数科の単元末テスト80点以上を超える児童の割合（学期ごと） 70%以上	70%	58%	82	2	・予習学習の内容、方法の検討、および充実を図る。 ・学力テストの結果分析を踏まえた授業改善を行う。 ・木曜日の放課後に学力補充の時間を設ける。 ・金曜日の朝の時間に計算タイムを設ける。	B	日課に改善を加えるなど、限られた時間内で最大限よく方策が立てられている。達成度が上がっていくことを期待する。学力アップには、家庭など学校外での努力も必要になるので、保護者の協力も必要である。
			②伝え合う活動の充実 ・全員が授業の中で必ず発言する場を設定する。 ・様々な教育活動の中で、伝え合う場を設定する。	②算数科のCRTが全国比100を超える児童の割合 65%以上	65%						
			②伝え合う活動の充実 ・全員が授業の中で必ず発言する場を設定する。 ・様々な教育活動の中で、伝え合う場を設定する。	②児童アンケート、教師の見取りで次のように回答する割合 90%以上 ・授業の中で、自分の考えをもっている。 ・自分の考えを書いたり話したりして表現することができる。 ・授業の中で、友だちと意見を出し合っているうちに、考えが深まったり、新しいことに気付いたりする。	90%	86%	95	3	・授業、全校朝会、他学年との授業交流等において意見交流の機会を確保する。 ・行事等において目標、目的をもった教育活動の充実を図る。	B	みんなの前で発表することは学生のうちに経験すべき大切なことだと思うので、それを重点的にやっていることは良いことである。苦手意識をもっている児童も一定数いると思われるので、フォローアップの方策もあれば達成値も上がるのではないだろうか。
信頼される学校	働き方改革を推進しながら、保護者・地域としっかりつながる学校づくりを行う。	働きがい高め、選択と集中により教育活動の質を高め、保護者・地域との信頼関係を高める	①教育活動の選択と集中により、働きがい高める。	①働きがいを感じる教職員の割合 90%以上	90%	96%	106	4	・教職員が個々の目標達成することにより働きがいを感じられるよう、教育活動の選択と集中、目標管理を進める。	A	先生方の姿勢に頑張りが見られる。やりがいを感じながら働けていることは素晴らしい。子供たちにも伝わるであろう。
			②地域・保護者と協働する『本地「夢」プログラム』の作成と情報発信	②保護者アンケート情報発信と特色ある学校づくりの項目での肯定的評価 85%以上	85%	81%	95	3	・今後も情報発信を積極的に行う。保護者・地域とのきめ細やかな連携を進め、つながりを深め、信頼関係を築く。 ・本地夢プログラムを年度末に向けて形にする。	A	『本地「夢」プログラム』が保護者や地域の方に浸透していくように、情報発信は必須である。

【学校自己評価 評価基準】 4…十分達成できた（達成度100以上） 3…おおむね達成できた（達成度90～99） 2…あまり達成できなかった（達成度80～89） 1…達成できなかった（達成度80未満）

【学校関係者評価 評価基準】 A…自己評価は大変妥当である B…自己評価は概ね妥当である C…自己評価はあまり妥当でない D…自己評価は妥当でない